

ゼミでビブリオバトル! 優勝は松田君

田中研新聞

第28号

2015年
12月1日発行

2015年10月1日号

甲南大学知能情報学部田中研究室 毎月発行
http://carnation.is.konan-u.ac.jp
編集長: 岡田 航大 (B4)
編集委員: 吉岡 一樹 (M2)

田中先生書評

ゼミでのビブリオバトルで、松田直樹君が紹介してチャンプ本になった本で、私自身、彼の紹介を聞いて読みたくなり、早速購入した。これぞ、まさにビブリオバトルの効果であろう。

著者は1943年生まれで、現在72歳くらいの宇宙物理学者であり、情報の専門家というわけではない。しかし、コンピュータは長年駆使してきており、過去から現在(おそらく未来についても)、コンピュータについて非常に的確にポイントをとらえ、その上で2045年問題を論じている。

全部で7章から成っている。「1章」コンピュータが人間を超える日、「2章」スーパー・コンピュータの実力、「3章」インターフェースの最先端、「4章」人工知能開発の最前線、「5章」コンピュータと人類の未来、「6章」コンピュータが仕事を奪う、「人工知能開発の真意」となっている。



1章は、クイズ問題を解くワトソンの実力ぶりからスタートし、「コンピュータの行く末を人間が予測できなくなる時点」を「技術的特異点」という科学的用語で定義している。これが2045年に訪れるというのが本書の主題である。この点を指摘している研究者カーツワイルの「収束加速の原則」、つまり、ムーアの法則により技術的特異点があるという説の紹介があるが、その前に、有名な映画である「2001年宇宙の旅」、「攻殻機動隊」、「ターミネーター」、「マトリックス」を具体的に取り上げ、未来の想像される世界を我々に提示している。著者はその中に描かれていることを否定することなく、そういう将来が来るのかなという余韻を持たせたまま、2章につなげている。

この本の優れている点は、現代の若い世代にとっても非常に興味深い映画の話題から話を起こして、読者の興味を引きつけたまま、コンピュータの進化(2章)、人体とコンピュータとのインタラクション(3章)、人工知能(4章)、技術的特異点後の世界(5章)、失業社会の到来(6章)というように、コンピュータと未来の姿を、科学的な知識を元にして議論の展開をしており、一般市民のみならず、情報の専門家にとっても、これを読むことによってホットな情報の世界を整理して理解することができるようになっている。5章では、人類の未来を4つのシナリオで描いている。1つめは人間がコンピュータによって支配されるというもの、2つめは巨大化したコンピュータの中に人間は肉體を失って入り込むというもの、3つめは著者が(そして、たいていの人が)理想と考える、人間は肉體が存続し、コンピュータが人間の知能を増強するというもの、4つめは何も起こらないというものである。我々は、コンピュータとの関わりを考えたときほぼ無条件に3つめを想像し、明るい未来を描くが、これを著者は「明るい寝たきり生活」と呼んでいる。私は、3つめと4つめの中間あたりが一番いいと感じるが、そこで果たして止まるのかどうか。この本を読むと、そうでもないと思ってしまう。



6章は、ローマクラブの「成長の限界」の話から始まり、人類の将来について、今まで人類が考えてきたものや著者の予測する未来の姿が描かれており、人工知能の開発が鍵を握るようでもあるが、著者も、コンピュータの世界から少し目を外に向けたときに、人類の未来を描くことは困難と感じているようにも思われる。

以上のように、コンピュータを中心とした世界を考へるとき非常に示唆に富む本であり、現代に生きるものとして、一読をお勧めしたい。(田中雅博)

この本は、パラダイム転換を提案しています。この本は一度通読しただけで本棚にしまい込んでおくようなものではないと考えてほしいということ。この本は変化と成長のプロセスを通して繰り返し参考できるように書いてあるから。最後に7つの習慣を紹介。1、主体性を発揮する。2、目的をもって始める。3、重要事項を優先する。4、Win-Winを考へる。5、理解してから理解される。6、相乗効果を発揮する。7、刃を研ぐ。この本は、これらの習慣を一つずつ詳しく書かれています。

この本は、いろいろな場面で成功するためにどうすればいいかということが書かれています。まず、インサイド・アウトについて書かれています。インサイド・アウトとは、自分自身の内面を変えることから始めるということであり、自分自身の根本的なパラダイム、人格などを変えることから始めるということ。問題を解決しなければまず自分自身を変

金儲けの方法ではなく、お金儲けをするための心構えについて書かれている本です。たとえば、「お金持ちが持っているお金は汚いやり方で手に入れてお金だ。だから損なお金は使いたくない」、これはお金持ちの人が汚いのであり、「お金自体に汚いもきれいなもない」とお金に対しての否定的な意見はもってはいけません。お金の入口だけをつくらず、出口もお金を循環させる、これは自分の中に溜め込んでしまおうと出口がないので、どんどん淀んでくるので、出口をつくりしっかりと循環させないといけないことも書かれています。

このようにお金に対する心構えが数多くかかれており、ほとんどの方が今まで考えもしなかった考え方が書かれている本と思われ、今までの考え方が変わるほんになりま。

この本以外に読んでいた本が、『なぜ関西のローカル大学「近大」が、志願者数日本一になったのか』という本で、ビブリオバトルで紹介するならそっちの方だろうと言われても仕方ないと思うのだが、『下町ロケッ』は、物語に引き込まれてしまったのでそちらに方向転換することにしました。ドラマ化したこともあり、見やすいと思うのでぜひ一度読んでいただきたいと思います。

「読術」▼著者: 山平重樹▼出版社: 幻冬舎アウトロー文庫
今回のビブリオバトルで私が紹介させて頂いた本は『ヤクザに学ぶ交渉術 著者: 山平 重樹』です。内容は是非読んでみてくださるといいます。

この本は、山平重樹氏が著者として書いた本で、内容は是非読んでみてくださるといいます。

この本は、山平重樹氏が著者として書いた本で、内容は是非読んでみてくださるといいます。

するといふ横井重平さんが考えた、ものづくりの哲学です。この本はどちらかというと、ハードウェアよりソフトウェアが中心にエピソードが書かれていると思います。が、ものづくりに携わる人は是非読んでみてくださるといいます。

本書『2045年問題 コンピュータが人類を超える日』▼著者: 松田卓也 ▼出版社: 廣済堂新書
2045年問題とは、2045年に全人類の知性をコンピュータが上回ることで、それ以降の歴史が全く予測できなくなるという問題です。これは、進化したコンピュータが、人類に貢献するの、人類を破壊の道に導くのか全く予想がつかない恐ろしい問題です。人工知能の世界的権威であるカーツワイル氏によると、人類や生命の進化は、指数関数的に進行しているようです。

この本の著者である松田卓也氏は、人類の未来について4つのシナリオを予想しています。1つ目は、人間がコンピュータに支配され、意識を持った強い人口知能が人類に敵対するシナリオ。2つ目は、巨大化したコンピュータのなかに、意識をアップロードして、肉體を失った人類はコンピュータの中で生き続けるというシナリオ。3つ目は、1つ目と2つ目の中間で、人間はそのまま存続し、コンピュータが人間の知能を増強するというシナリオ。4つ目は、何も起こらないということ。どんな未来が来ても大丈夫なように心の準備をしておいたほうがいいのかもしれない。

岩佐幸輝

本書『七つの習慣』▼著者: スティーブン・R・コヴィー ▼出版社: キングベア出版
この本は、いろいろな場面で成功するためにどうすればいいかということが書かれています。まず、インサイド・アウトについて書かれています。インサイド・アウトとは、自分自身の内面を変えることから始めるということであり、自分自身の根本的なパラダイム、人格などを変えることから始めるということ。問題を解決しなければまず自分自身を変

石原史也
本書『一生お金に困らない生き方』▼著者: 心屋仁之介 ▼出版社: PHPR研究所
まずこの本の前提で、タートル「一生お金に困らない生き方」をみると、お金が溜まる方法が書かれています。と考える人が多いと思います。しかし、この本はお

岡田航大

本書『下町ロケッ』▼著者: 池井戸潤 ▼出版社: 小学館
この本以外に読んでいた本が、『なぜ関西のローカル大学「近大」が、志願者数日本一になったのか』という本で、ビブリオバトルで紹介するならそっちの方だろうと言われても仕方ないと思うのだが、『下町ロケッ』は、物語に引き込まれてしまったのでそちらに方向転換することにしました。ドラマ化したこともあり、見やすいと思うのでぜひ一度読んでいただきたいと思います。

栗岡亮太
本書『ヤクザに学ぶ交渉術』▼著者: 山平重樹 ▼出版社: 幻冬舎アウトロー文庫
今回のビブリオバトルで私が紹介させて頂いた本は『ヤクザに学ぶ交渉術 著者: 山平 重樹』です。内容は是非読んでみてくださるといいます。

松田直樹

本書『2045年問題 コンピュータが人類を超える日』▼著者: 松田卓也 ▼出版社: 廣済堂新書
2045年問題とは、2045年に全人類の知性をコンピュータが上回ることで、それ以降の歴史が全く予測できなくなるという問題です。これは、進化したコンピュータが、人類に貢献するの、人類を破壊の道に導くのか全く予想がつかない恐ろしい問題です。人工知能の世界的権威であるカーツワイル氏によると、人類や生命の進化は、指数関数的に進行しているようです。

この本の著者である松田卓也氏は、人類の未来について4つのシナリオを予想しています。1つ目は、人間がコンピュータに支配され、意識を持った強い人口知能が人類に敵対するシナリオ。2つ目は、巨大化したコンピュータのなかに、意識をアップロードして、肉體を失った人類はコンピュータの中で生き続けるというシナリオ。3つ目は、1つ目と2つ目の中間で、人間はそのまま存続し、コンピュータが人間の知能を増強するというシナリオ。4つ目は、何も起こらないということ。どんな未来が来ても大丈夫なように心の準備をしておいたほうがいいのかもしれない。

院生ポスター発表

田中研からは須谷が発表

11月7日に甲南大学内の甲友会館ロビーにて、学内のポスター発表を行い、前半後半の後半パートという短い時間の中で、多くの方々に私の研究内容や発表を見ていただき、どのような説明が不足していたかがわかりました。また、私の本研究に対してどのシステム部分に対して興味を惹かれるのかも知ることができ、今後の学会での発表への向けて貴重な経験をすることができました。また、発表会を行う中でポスターを作成する必要があったのですが、作成を通して現在自分の本研究がどの程度まで進行しているのか、また今後の課題点など今後研究を進めていく上での重要な点を再確認することができました。

本発表にあたり、ご多忙にもかかわらず時間を割いてご来賓いただいた皆様、またポスターの作成に協力していただいた田中教授に感謝の意を表します。(須谷章宣)



始まるマイナンバー制度

兵庫は通知カードは11月配布完了

編集後記

11月が終わりました。11月は学園祭があり、学内に遅くまで残っている人が多かったです。なかなか普段20時を超えると部活がある生徒も帰っているため、ファミリーマートに行っても全然人がいませんが、この時期だけは特別なようです。

マイナンバー制度がもうすぐ始まる。私のマイナンバーも11月の中旬に家に届いた。親に聞いて初めて知ったが、家族同士だからといって近いわけではなく、完全にランダムになつていくように。考えてみれば当然といえば当然なのだが、セキュリティには一応気は使っているようである。無知だったので、マイナンバーが来るマイナンバーカードが来ると思っていたのだが、実際は紙でマイナンバー通知書のようなものが送られてきた。どうやらカードには別で申請が必要なようだ。紙のままだと身分証明書として使用することができないので、まだ免許を持つていない人などが申請することになりそう。安倍総理の政策で買うものの際にマイナンバー

提示で税金を軽減というよりも撤廃されたようなものでも、本格的にマイナンバーカードを持つメリットは薄いものとなったように思える。メリットよりデメリットの方が大きいし、免許書を持つていない身としてはそれで十分……かと思いきや、アルバイトの勤務先などで『マイナンバーカード』のコピーの提出義務がある場所もあるため、人によっては申請する必要が出てくる。



が発生している。日本でもそうなる可能性はかなり高い。しかし、紐付がほとんど行われていくと、それはそれで便利であり、例えば電子マネーなどもこの中に組み込まれる。多様なサービスが活用されている。しかし一方でマイナンバーの仕組みでは預金額などもわかってしまうので、国によっては預金税のようなもの

気になる便利グッズ

第7回着る毛布・体にフィットするソファ

極度の暑がりの為、基本的には真冬であろうと自宅でほとんど暖房をつけることはないのだが、今年は少し体調が芳しくないのか既に寒さを感じる機会が多かった。体調を崩さないように、着る毛布というものを購入した。色々な店で安いものでは500円程度のもので高いものは万を超えるものまで売っているのだが、私は地元近くにあるカインズホームというホームセンターで売っていたものを購入した。値段は980円とかなり手頃だったので正直あまり期待してい



なかつたのだが、暖かさは十分で、贅沢な事に着ている感じがとても心地よく、最近よくそのまま床に就いてしま、もう布団はいらないのではないかと、という錯覚に陥っている。ただし私の身長ではどうしても足を引きずってしまう。そのため、階段などをのぼる時

は少し裾を持ちながら歩かないととても危ない。何度か階段から落ちそうになった。しかし、とても暖かいのには変わりないので、これ1つで今年の冬は過ごせそうである。今回、もう一点紹介したものがあ。ネットなどでは数年前から話題にはなっているもので、無印良品で販売している『体にフィットするソファ』だ。一部では『人をダメにするソファ』とも言われている。一般的に言われるソファとは違い、デカイクッションのような見た目だ。中にビーズが入っており、座るとビーズが体を避ける為、スポンジのように沈むので、包まれるような感覚に陥る。この感覚の中毒性が酷く、私自身もネットの評判を開



いた購入したクチナなどの気がこの上にいると何もする気が起きなくなってしまう。まさしく『人をダメにするソファ』だ。中にはこのソファを2つ購入し、ベッドとして利用するようになっている。さすがに『人をダメにするソファ』だと、さすがに注意が必要だ。しかし値段は意外と高く、カバーとセットで大体1万5千円くらいだ。しかし、その価格以上の中毒性がある。気になった方は、全国の無印良品の大体のお店で体験するために置いてある。そこで実際に体験してみたい。また、ネットで検索するとよくわかるが、猫や犬を飼っている人は注意が必要で、猫や犬がこの上から退かなくなってしまう可能性が極めて高いよう。動物にもこのソファがもたらす気持ちはよさは共通のようである。(岡田航大)

たこれを枕のように利用し、足はこたつに、なんてことをすると本当に出る。さすがに注意が必要だ。しかし値段は意外と高く、カバーとセットで大体1万5千円くらいだ。しかし、その価格以上の中毒性がある。気になった方は、全国の無印良品の大体のお店で体験するために置いてある。そこで実際に体験してみたい。また、ネットで検索するとよくわかるが、猫や犬を飼っている人は注意が必要で、猫や犬がこの上から退かなくなってしまう可能性が極めて高いよう。動物にもこのソファがもたらす気持ちはよさは共通のようである。(岡田航大)

が発生している。日本でもそうなる可能性はかなり高い。しかし、紐付がほとんど行われていくと、それはそれで便利であり、例えば電子マネーなどもこの中に組み込まれる。多様なサービスが活用されている。しかし一方でマイナンバーの仕組みでは預金額などもわかってしまうので、国によっては預金税のようなもの

先日久しぶりにゲームを購入したのですが、そのゲームの中にある景色がどうしても見覚えがあったので、モヤモヤしていたわけですが、色々調べてみると景色を書くのにモデルにした場所がどうやら神戸周辺だったようで、よくよく見ると明石海峡大橋っぽい橋があったり、須磨水族館らしき水族館があったりして、ちよつとテンションが上がっていました。大体こういうもののロケ地は東京や神奈川といった東日本が多いです。神戸も結構色々なドラマや漫画でロケ地には選ばれているのですが、それも中央区の方がメインで、須磨や垂水、明石などは大体スルーされています。明石は今再開発中なので、本当になにもありません。マクドナルドのようなファストフード店は既にロケ地アだけになっており、アミューズメント施設もカラオケ以外はありませ。学生的には本当におもしろくない街になっています。あと1年程の辛抱らしいです。

しかし、紐付がほとんど行われていくと、それはそれで便利であり、例えば電子マネーなどもこの中に組み込まれる。多様なサービスが活用されている。しかし一方でマイナンバーの仕組みでは預金額などもわかってしまうので、国によっては預金税のようなもの

くためにお金が必要だ、なんていうことは起きないの、注意しよう。更には、とあるお店では『マイナンバー割引』のよなことをやっており、マイナンバーの下1ケタが『3』の方に1割引き、といったような事をしていいるお店もある。セキュリティ面は大丈夫か気になる。恐らくTポイントカードなどもマイナンバーを収集するために、マイナンバー登録カードならポイント2倍のようなことをやっても決して違和感はない。恐らくいろんな企業がいかに会員のマイナンバーを知るかの手段を競い合っているのではないだろうか。

今月から12月に入り、4回生は卒業論文に向けてラストスパートで、3回生は本格的に研究内容が決まってきた。研究室的にはドタバタすることも多くなり、少し早いですが、今年も1年ありがとうございませした。良いお年を。(岡田航大)